富山大学 教養教育院

令和２年度 第4回

FD研修会報告

Faculty Development Report

FD REPORT

Liberal Arts and Sciences at **University of Toyama**

目　　次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

教養英語科目の取組みと、オンデマンド授業のアンケート結果
（山岸 倫子）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

アンケート自由記述欄からみる遠隔授業の実施状況：社会科学系
選択科目「日本国憲法」「市民生活と法」「経済生活と法」の場
合（上田 理恵子）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

アンケート結果にみる Zoom の有効性：人文系選択科目「治療の
文化史」「日本の歴史と社会」を例として（谷口 美樹）　・・・・・・・・・ 6

令和２年度前期担当科目における授業評価アンケートの結果に
ついて（杉森 保）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

参考資料
- 開催要項
- 参加状況

はじめに

令和２年度第４回教養教育院 FD 研修会「授業満足度の向上と遠隔授業の手法に関する意見交換会」を Zoom ミーティングにより３月３日に開催した。この FD 研修会は、二部構成で行われた。第一部では、本年度開催した「遠隔授業の手法」と「授業満足度の向上」に関する FD 研修会を振り返り、そこで得られた知見が整理されて示された。第二部では、第一部で示された知見を踏まえつつ、教育改善検討 WG メンバーがパネラーとなって、遠隔授業で行われた前期の授業についての授業アンケート結果や今後の授業に生かせる工夫についての議論が行われた。そこではパネラーの担当授業についての授業アンケート結果が具体的に示されながら、「前期の授業アンケートで見られた特徴」や「遠隔授業の授業満足度等への影響」について、科目ごとの特色も含めて話し合われた。また、「遠隔授業の良い点やそこから学んだ工夫を今後活用できるか」もテーマとなり、「前期の遠隔授業から後期に対面授業に切り替わったことによる学生の様子」や「後期において部分的に行われた遠隔授業の影響」についても話し合われた。

本報告書は、第二部のパネルディスカッションにおいて各パネラーが自身の担当授業の授業アンケートに基づいて提示した情報とそれについての議論をまとめたものである。第一部で示された知見については、既に「令和２年度第１回 FD 研修会報告書」と「令和２年度第３回 FD 研修会報告書」に示されているので、それらを参照して頂きたい。また、本 FD 研修会の様子をより詳しく知りたい方は、教養教育支援室に問い合わせて頂ければ FD 研修会の録画の視聴が可能である。

教養英語科目の取組みと、オンデマンド授業のアンケート結果（山岸 倫子）

自身の授業を振り返る前に、英語分科会として、コロナ禍における前期授業にどのように対応したかについて紹介した。英語分科会は、3 月末からオンデマンド授業の可能性を探っていた。というのは、教養英語科目は前期 84 クラス、担当教員 30 名以上と大所帯な科目である上に、各クラスの内容が先生方に一任されているため、もし突然に遠隔授業の指示が出た場合、混乱が起こる可能性が高いと考えたためである。紆余曲折を経て、最終的に、非常勤の先生方には、最初の 3 週間においては英語分科会で準備した Moodle 上のオンデマンド教材を使用してご指導いただくこととし、その間に、先生方には、ご自身の教材を、第 4 週からいかに遠隔授業に落とし込むかを検討していただくことにした。ただ、この教材の作成を開始した 4 月初旬の時点では、学生が確実に 90 分学習したかどうかのログを取ることが、大学側からの条件として提示されていたため、それをクリアするために、必ず 90 分以上はかかるであろうオンデマンド教材を作成することとなった。前期教養英語科目のアンケート結果において、この 3 週間の課題の多さに対する不満がいくつか見られたが、それは各先生方の責任ではなく、上記の事情により発生したものと考えられる。

次に、自身の授業について、昨年度のアンケート結果と比較するため、英語コミュニケーションを例にとって紹介した。本授業では、英語で書かれた日本文化についてのガイドブックを教科書として読ませると同時に、英語でのプレゼンテーション方法を学ばせた。Moodle によるオンデマンドを基本としつつ、3 回は Zoom での双方向授業を行った。オンデマンドの部分においては、①予習として、指定個所の簡単な要約文の提出（授業日前日締切）、②理解度チェックと英語プレゼンテーション関係の動画視聴（授業日当日）、③理解度チェックの解説視聴及び、①より字数を増やした形での要約文の提出（授業日翌日）、という 3 段階構成で行った。（これについては、スケジュールが複雑で、課題提出を忘れてしまうことがあった、という声を受け、後期のオンデマンド授業では改善を行った。）

本授業に対するアンケート結果であるが、昨年度と比較して、ポイントが上がったところと下がったところがあった。授業内容に関して 0.1 ポイント以上上がったところは、Q5. 聞き取りやすさ、Q6.わかりやすさ、Q9.全体理解、Q11.授業外学習、Q12.質問機会、Q15.総合満足度、Q16.授業の魅力、Q17～19.授業内容（日常生活・適切か・職業選択）、Q22.課題やレポート指導であった。これらの中から、遠隔授業の恩恵と考えられるのは、聞き取りやすさ、わかりやすさ、授業外学習、質問機会、課題やレポート指導であろうか。これら以外にポイントが上がったところの要因としては、教科書を前年度から変更し、「海外の人たちに日本がどのように紹介されているかを知る」というテーマにしたことが考えられる。次に、0.1 ポイント以上下がったところは、Q14.授業環境、Q20.授業内容（問題発見・解決）、Q21.質疑応答・意見交換であった。これらはすべて、遠隔授業（オンデマンド）のむずかしさが反映された結果ではないかと考える。

アンケートの自由記述については、前年度よりもコメント数が増加したように感じた。こ

れは、アンケートの取り方の変更（紙媒体から Moodle へ）によるものであるように思う。コメントはほとんどが授業のテーマに関するもので、おおむね興味を持って受け入れられたことに安心した。一方、課題の多さ等を指摘する声も少数ながら存在したため、今後の課題としたい。（学生には単位数に応じた時間外学習時間について周知し、理解を促す必要性があると感じている。）

最後に、遠隔授業については、特にメディアではバッシングに近い状態であったことが記憶に新しいが、実際には良い面も多く存在するし、メリットを感じる学生もかなりの割合で存在することも事実である。コロナ禍ではもちろんのこと、その後においても、遠隔と対面の良い部分を柔軟に組み合わせていくことが望まれるのではないか。

アンケート自由記述欄からみる遠隔授業の実施状況：社会科学系選択科目「日本国憲法」「市民生活と法」「経済生活と法」の場合（上田 理恵子）

2020 年度前期に社会科学系選択科目において 4 つの授業を担当した。授業科目と受講人数の内訳はそれぞれ「日本国憲法」（2 年生以上優先）73 人、「経済生活と法」168 人、「市民生活と法」（同一内容で 2 クラス）155 人と 98 人となった。

初回から Moodle だけは使用したものの、Moodle 初心者講習会で教わった知識だけで、授業を開始した。Zoom の使用については、操作未熟と機器の不具合が続いて、学期後半からと出遅れた。

受講生アンケート「日本国憲法」自由記述欄では「フィードバックが間に合う程度の課題の出し方が〔原文ママ〕してほしい」「わからないことがわからないのに Zoom で評価されても困る」という不満が寄せられた。Moodle のコメント記入の方法や小テストの作り方などが事前にわかっていたら別の対処法もできただろうが、学期開始当初はそれらを習う余裕すらなかった。その一方で、「レポートの書き方について訂正や助言をもらえたのはこの講義だけだったのでありがたかった」という回答も寄せられたので、自分なりに少しずつ Moodle を習い覚え、機器の不具合と操作に悩まされながらも Zoom を導入した甲斐はあった。

受講生アンケート「経済生活と法」と「市民生活と法」では「ためになることばかりを学ぶことができた」「後半で Zoom を用いて理解度が増した。興味深いテーマが多くて楽しかった」「法学の学習は難しいものだと思っていましたが、市民が生活していくうえで必要となってくることを学習できました」という好意的な記述が多く、Zoom 導入に合わせて教材を試行錯誤した成果が認められた。もっとも、これには「教材手段を事前に明示すべき」という批判も寄せられた。「ブレイクアウト中、返答がないことがあった」という回答もあり、グループワークを巡視する操作を会得する必要があるとわかった。

パネルディスカッションの質疑応答では、授業内容の統一やオムニバス形式の導入の可能性を尋ねられた。個人的にはその必要は強く感じているものの、現状では部会内の対話そのものが難しく、時間と工夫を要する課題である。

議論する時間があまりなかったが、後期の実施状況について少しだけ補足しておきたい。コロナ感染拡大防止のため、大人数授業では対面時でのグループワークは思いとどまっていたが、オンラインに切り替わった際に Zoom のブレイクアウトを再開した。授業後の感想には「自分の知らない意見が聞けてよかった」という評価もあった一方、「全部の時間を講義にしてほしかった」「知らない人と話すのはいやだ」「こういう活動は対面でないと意味がない」というクレームがかなり多かった。対面時に会話時間を長引かせないでグループワークあるいはその準備を工夫することも課題である。

アンケート結果にみる Zoom の有効性：人文系選択科目「治療の文化史」「日本の歴史と社会」を例として（谷口 美樹）

2020 年度前期、遠隔授業を Zoom と Moodle を用いて行ったところ、受講生アンケート「治療の文化史」自由記述欄に「クラスメイトと話せるのは貴重な時間」「他学部の人との交流の機会」「テーマが決められていたのでテーマに沿った意見を交換して他の人との意見の違いに触れることができた」などの回答が寄せられ、「日本の歴史と社会」自由記述欄に「ほかの生徒とリアルタイムで議論できる機会があったので非常に良かった」「生徒同士の話し合いの場が毎回設けられていたことがとてもよかった」「他の生徒との交流があったのが良かったです。それによって、他の生徒の考えてることを知れて、良い経験となりました」などの回答が寄せられた。

これらは Zoom でライブ授業を行った際、Zoom のブレイクアウトセッション機能を用いて受講生を 3 人～4 人程度に分け、こちらで用意した話題について話し合いの機会を設けたことに対する回答である。そのほか「日本の歴史と社会」自由記述欄に「質問に丁寧に対応していただき助かった」という回答があったが、これもまた Zoom の機能の一つであるチャットを活用したことによるもので、受講生の質問にチャット機能を用いることによってその都度、対応できたことに対する回答である。

「治療の文化史」「日本の歴史と社会」は人文系選択科目であり、受講生は全学部全学年を対象とする、大教室にての授業となっている。2020 年前期の受講人数も 154 名と 156 名と多数であり、受講生の要望もまた多種多彩なのであるが、上記の受講生アンケート結果からすると、Zoom 機能を用いることによって、ある程度ひとりひとりの要望に対応できたのではないかと推測される。

後期になって対面授業がはじまったが、マスク下の、大教室・大人数授業に対して、中間アンケートでは、「空調がうるさくて聞こえない」「先生だけがしゃべっていて、対面の良さがない」などの回答が寄せられている。前期に得られた、Zoom 機能の活用による学修効果をどのような形で対面授業において継続していくのか、新たな工夫を検討していかねばならないと思っている。

令和２年度前期担当科目における授業評価アンケートの結果について（杉森保）

令和２年度前期の授業評価アンケート結果について、自己分析を行った概要を報告した。

・前期の授業評価アンケートの結果は前年同時期のアンケート結果と大差は無かった。ただし、「わかりやすさ」の評価が高まっていることから、オンライン授業ならではの「わかりやすさ」があると考えた。具体的には、オンデマンド動画を繰り返し見られることにより一度では聞き取れなかった内容の理解が進むこと、提示される資料も画像を停止し拡大するなどして把握しやすくなることが想定される。

・授業評価アンケートの結果を学生に公開するために、前期が終わって一旦閉じた Moodle のコースを再開させ、学生に告知することで二割程度の学生が閲覧していることを紹介した。なお、Moodle では後期の授業評価アンケートは年度をまたいでしまって公開できないので、今後に継続できるよう、別途公開用の WEB ページを作成した。

・授業評価アンケートの自由記述欄について、テキストマイニングによる分析を紹介した。受講生による傾向の違い、ピックアップした語句同士の関連などがわかることから、今後もさらに検討を進めることで有用な手段となり得ると考えている。（参考：「社会調査のための計量テキスト分析 第２版」、ナカニシヤ出版、ISBN-13 ： 978-4779514746）

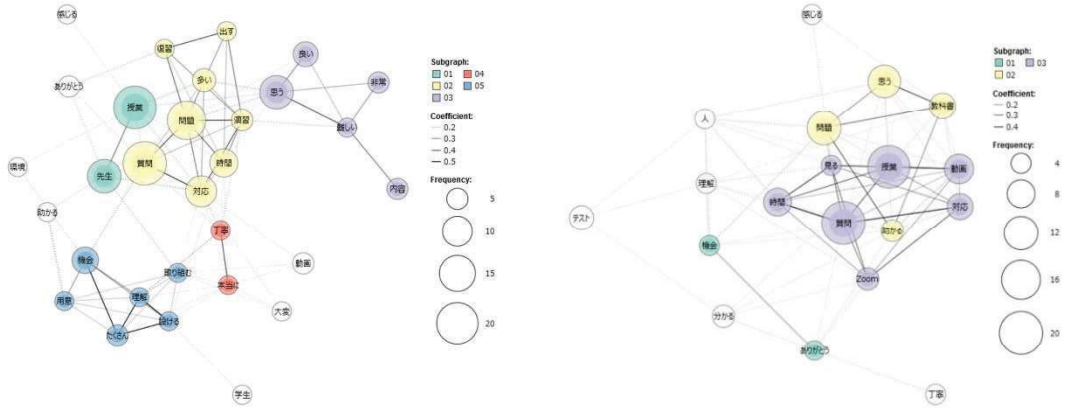

図　テキストマイニングによる共起ネットワークの一例（左；医学科、右；薬学部）

参考資料

令和２年度第４回教養教育院ＦＤ

テーマ：「授業満足度の向上と遠隔授業の手法に関する意見交換会」

研　　修　　内　　容

１．開催日時：令和３年３月３日（水）　１３：３０～１５：００（予定）

２．開催形態：Zoom 等を利用したオンラインミーティング形式

３．対 象 者：令和２年度教養教育科目担当教員（非常勤講師を含む）

４．日　　程

（１）開会・オリエンテーション　１３：３０～１３：４０

・　開会の挨拶　　谷　井　一　郎　（教養教育院評議員）

・　日程・趣旨説明　彦　坂　泰　正　（教養教育院教育改善検討ＷＧ座長）

（２）令和２年度教養教育院 FD の振り返り　１３：４０～１３：５０

・　遠隔授業の手法に関する FD（第１回 FD）で得られた知見についての整理・分析
説明者：　教養教育院　杉森　保　（５分）

・　授業満足度の向上に関する FD（第２回 FD）で得られた知見についての整理・分析
説明者：　教養教育院　彦坂　泰正（５分）

（３）自由討論　１３：５０～１４：５０

・　授業満足度の向上と遠隔授業の手法について
パネラー：　教養教育院教育改善検討 WG 構成員

（４）閉会　１４：５０～１５：００

・　講評及び閉会の挨拶　武　山　良　三（教養教育院長）

参考資料

教養教育院FD2020「授業満足度の向上と遠隔授業の手法に関する意見交換会」参加状況

所属部局等	参加人数
教養教育院（理事含む）	13
人文学部	1
人間発達科学部	1
経済学部	2
理学部	1
工学部	1
都市デザイン学部	1
医学部	2
芸術文化学部	1
地域連携推進機構	1
国際機構	1
総合情報基盤センター	2
環境安全推進センター	1
合計	28

富山大学 教養教育院 ＦＤ活動報告
令和２年度第４回ＦＤ研修会

発行年月	2021年4月
作成	教養教育院 教育改善検討ワーキンググループ
ワーキンググループ構成員	彦坂 泰正
	上田 理恵子
	杉森 保
	谷口 美樹
	山岸 倫子
表紙デザイン	武山 良三